

ガンコ親父の

遂に松次郎がスマートフォンを手にする日がやって来た。これまでは、通話機能さえあれば事は足り、松次郎愛用のケータイでも何の不自由もなかったが、そのケータイにもついに死期は訪れた。エアコンが壊れたときのような前症状は出ずに、いきなりプツン。「生あるものは必ず死あり」か、仕方ない。神妙な面持ちで携帯電話ショップに向いた。店では我が子より若いような女性店員が応対してくれた。しかし、その対応はマニュアル通りだろうが、デジタル音痴の松次郎への忖度具合も十分で、専門用語にはやさしく解説を加えてくれた。だが、その女性店員の奮闘も空しく、松次郎には全てが難解過ぎて、最後まで「ぬかに釘」の状態は続いた。特にSNSとやらは最悪で、まるでこの世のものとは思えなかった。インスタバエって、蠅の仲間か？



奄美黒糖焼酎

こんなにデジタル用語が続いたら、間違いなく松次郎は発狂していただろう。だが、壊れたケータイからデータを取りだせたといいツキもあり、気分は奇跡的に悪くならずに済んだのだった。

しかし、これまで無関心だったスマホも、手にしてみると案外ワクワクするものだ。店で試しにウォーキングアプリをインストールして、たので、家までの歩数をカウントする事にした。ケータイと違い、大きい画面に表示されるカウントは新鮮で、でんぞうにドキドキした。歩数にあわせてきちんと数字は増えて行く。さてよ、スキップでもきちんとカウントしてくれるのだから、よせばいいのに松次郎はスキップを始めた。しかし、子供の頃のようなリズム感はずでに無く、つんのめって倒れてしまった。周りに悟られないようにして起き上がったが、女子高校生が口を押さえて笑っていた。「大丈夫ですか？」。松次郎は「にかっ」とまばゆいばかりの笑みを返して、痛みとテレを隠した。

「へ？、親父もついにスマホデビューしたか」と息子の学が松次郎のスマホを手にして言った。「あれっ、買ったばかりなのに、傷があるぞ」と、学はこんな不良品は返品すべきだと文句をいった。スキップをしていて転げて傷が付いたとか、格好悪くて言えなかった。丁度、テレビからは今年の新語・流行語大賞のその「言葉」が聞こえてくる。

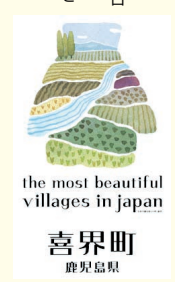
インスタバエはどうも「蠅」とは違うようだ。人に喋らなくて良かった。それは分かったが、じゃあインスタは何だ。謎はさらに広がった。学に聞くのもしゃくにさわるが、ここは我慢。しかし学の説明ではインスタグラムの謎も深まるばかり。とうとう最後は「やっぱり化石オヤジにはわからんよ」「何っ、お前の説明が悪すぎだ」と久し振りに衝突してしまった。

「はいはい、ケンカはそこまです。今日はお父さんのスマホデビューの日だから、これで乾杯でもしたら」と貴代が「しまっちゅ伝蔵」をふたりの間に置いた。男同士にはやっぱり真ん中に酒の構図が一番ね。インスタ映えるするわよ、写真撮ってあげようかと貴代はひとりで笑った。やっぱり、師走の夜はにぎやか過ぎるくらいが良く似合う。

25度 好評発売中



常圧蒸留
昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokのある味と香ります。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
☎0997(65)0251

インスタ映えに乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。